

教材解釈

学年	教材	検討内容
4年 1学級	「プラタナスの木」	<p>この物語で中心人物であるマーチンが変化したところを探し、木が切られた後の5場面を中心に話し合った。</p> <p>25段落の一文「プラタナスは切りかぶだけになったけれど、ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。」を展開の核とするなら、どんな問題ができるかを出し合った。</p> <p>“プラタナスの木は切られて切り株だけになったのに、なぜ「ぼくたちのプラタナス公園は変わらない」のか”を大問題とした場合、問題解決にあたってどんな小問題ができるか。マーチンがそう言った原因やきっかけは何か。「ぼくたちの」と限定するのはなぜか。「ぼくたち」にはおじいさんは入っているのかいないのか。プラタナス公園のいったい何が「変わらない」のか。などの問題を出し合った。</p> <p>25段落だけでは問題解決できないため、5場面の21段落～25段落で、根拠となる言葉を見つけたり、他の場面がどんな役割をしているのかも読み取ったりする必要がある。</p> <p>子どもから、「おじいさんは木の妖精ではないか？」と妖精説が出た場合、それを根拠とする文、言葉が本文に書かれているかどうか確認し、その説を取り上げないようにしたい。</p>